



シャープペンを使いなくなる年頃

シャープペンとはシャープペンのことですが、高学年になってくると、シャープペンを使いたがる子が増えます。鉛筆を削る



手間が省けて便利ですが、七小ではシャープペンの使用は学校として禁止しています。図工でも「使っていないですか?」と聞いてくる子がいます。規則を守ることも大切ですが、図工では、また別の問題があります。シャープペンですと、線の強弱の幅が狭まります。必要に応じて道具を使い分けられる力も大切です。気持ちで判断せず、頭で考へて行動できることが大切と思いました。

職員研修でレーザーラフト



放課後に、職員向けの研修で、レーザーラフトを行いました。「キッズレーザープロジェクト」という企業が、廃棄になってしまいう革を提供してくださり、図工の授業でも使っています。革は命をいただいているありがたいさを感じることが出来ます。

四年生 「森のげいじゆつか」では、木を

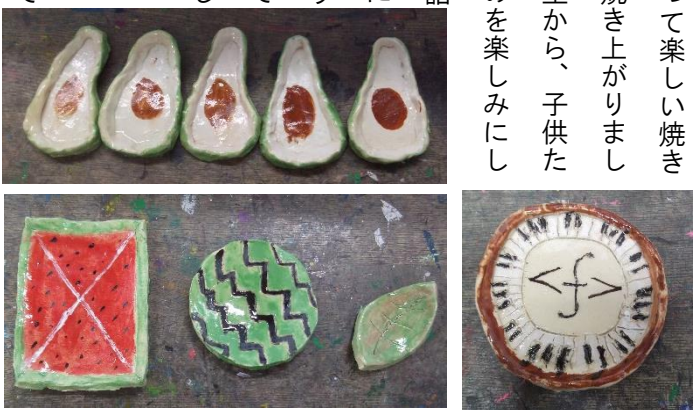
中心に、自然のものを材料に秘密基地をつくっています。この学習で大切なのは、材料を見てどんな形をつくるか思い付くことと、三年生の時に習ったのこぎりと金づちの使い方を工夫して、木同士をくっつけることです。釘で二つの木材をしっかりと固定できるように金づちを打つのは、慣れないと難しく、斜めに打って途中からはみ出てしまうこともあります。試行錯誤しながら、よく取り組んでいます。



また、秘密基地のアイデアも様々で、ツリーハウスのようにしている子もいれば、角ばった木を多く使って、工場のような形を作っている子もいます。完成が楽しみです。

五年生 「使って楽しい焼き

物」の作品が焼き上がりました。担任の先生から、子供たちが持ち帰るのを楽しみにしているという話を聞き、綺麗に焼き上がるように時間をかけて丁寧に焼きました。



子供たちに 使って、自分で作るものという体験自体が、とても印象的だったようです。後日、作品を持ち帰って下さったかという話になった時に、大事にしているの、使っていないという話を聞きました。見た目も楽しめるようにできたので、飾って楽しんでよいと思いました。早いもので、五年生も春にはもう六年生です。次は、来年の「一年生をむかえる会」で新一年生にプレゼントするカードをつくり始めます。

一年生 「六年生ありがとう」では、教室の

掃除をしてくれたり、一緒に登校してくれたりした六年生に感謝の気持ちを込めて、折り紙と色画用紙を使い、メダル作りをしました。色の組み合わせを考えて、かわいらしくしたりかっこよくしたり、自分なりのよいと思う感じを考えてつくりました。「六年生を送る会」が、どんな形になるか分かりませんが、六年生が喜んでくれるといいなと思います。



「わくわくボックス」では、おうちから持ってきた箱に色画用紙などを貼って、自分の大切なものを入れる箱をつくりました。箱のご準備ありがとうございました。



三年生 「クリスタルファンタジー」

では光の面白さを発見する活動を行いました。



お花紙やカラーセロハンに光を当て、どのような光の見え方があるか実験するように楽しみました。緩衝材(プチプチ)に当てると、丸い凸凹で光が屈折してきれいだと気付いたり、綿をかたまりで光に当てるか、ちぎって当てるとよく考えたり、よい実験ができました。



六年生 最後の題材「ぼく・わたしが未来をつ

くる」楽しい町づくり」が始まりました。今まで生活してきた地域の環境から、「もつとこうだったらいいな。」と思うことを考え、それを実現できる建物や施設を、立体でつくります。二年生の「町探検」や、四年生の「地域安全マップ」の経験を活かして、アイデアを出しました。面白いと思ったのは、道路を川にするというアイデアです。イタリアのヴェネチアのようにですね。テーマが現実的ではありませんが、子供じゃないと思いつかないアイデアも大切にしたいと思いながら授業をしています。

左の写真は、図工室にある建築の本を参考にしている様子です。

